授業科目名： 地理概説Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目（中学社会） 選択科目（高校地歴）	単位数： ２単位	担当教員名：齊藤　正 担当形態　単独
実務内容 （実務家教員の場合）			

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 人文地理学・自然地理学（高校地歴） 地理学(地誌を含む)（中学社会）

「学位授与の方針」との関係

地理学自体が学際的な領域であり、さまざまな専門領域の知識をグローバル化の中の具体的な地域の特色に統合する役割がある。また、グローバル化の中の地域での課題の問題解決に資する手法として、地図を用いる。そして、グローバル化の中で、地域性と格差の問題を捉えるために、星槎の三つの約束は重要な参照点となる。そして、地域の様々な産業と開発をグローバル化の中で理解するために絶えず学び続けることの重要性を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

地理学自体が学際的な領域であり、さまざまな専門領域の知識をグローバル化の中の具体的な地域の特色に統合する役割がある。また、グローバル化の中の地域での課題の問題解決に資する手法として、地図を用いる。そして、グローバル化の中で、地域性と格差の問題を捉えるために、地域の様々な産業と開発を理解する。

授業の概要

（１）人・もの・資本・情報などの動きが地球規模へと拡大し、グローバル化している状況を理解する。

（２）経済のグローバル化は、世界の依存関係を強めるとともにさまざまな地域性と格差を生み出すことを理解する。

（３）日本国内の観光業、商業、工業、農業等の変化と地域開発について学習するとともに、持続可能な社会の在り方について考察する。

授業計画

（１）人・もの・資本・情報などの動きが地球規模へと拡大し、グローバル化している状況を学修する。(教科書：第３章　グローバリゼーション)

第１回：航空機は世界をめぐる ― 世界の航空旅客の流動　(第 3 章の 19)

第２回：アジア新時代 ― 進むアジア諸国間の分業　(第 3 章の 18)

第３回：農林水産物を外国に依存する日本の姿（第 3 章の 20）

第４回：世界をめぐる石油 ― 石油資源の偏った分布と消費の状況　(第 3 章の 21)

第５回：ヨーロッパの「中心」と「周辺」 ― 人口、経済、生活水準の視点から
(第 3 章の 22)

第６回：教科書第３章全体をふりかえり　グローバリゼーションの課題をまとめる

（２）経済のグローバル化は、世界の依存関係を強めるとともにさまざまな地域性と格差を生

み出すことを学修する。（教科書：第４章　さまざまな産業そして地域開発） 第７回：農業近代化への道 ― アフリカの農村と食料問題（第４章の 31） 第８回：インドの東西南北とフィリピンの地域開発（第４章の 29、30） 第９回：第８回、第９回の授業で学びから　発展途上国の地域開発の課題を考える （３）日本国内の観光業、商業、工業、農業等の変化と地域開発について学習するとともに、持続可能な社会の在り方について学修する。（教科書：第４章　さまざまな産業そして地域開発） 第１０回：日本の世界遺産と観光業（第４章の 23、24） 第１１回：急変する日本の商業（第４章の 26） 第１２回：変わる日本の工業立地（第４章の 27） 第１３回：日本の農業の土地利用変化（第４章の 28） 第１４回：第 10 回から 13 回の授業で学んだ日本国内の産業に変化と地域開発についての学習から、日本が求められる持続可能な社会の在り方とは何かを考える 第１５回：これまでの学びからグローバル化のメリットと課題について考え、持続可能な社会を作るために必要な事を考える 定期試験
教科書 　高橋 伸夫ほか（編）『改訂新版 ジオグラフィー入門』古今書院 2008 年
参考文献 （１）辰巳勝・辰巳眞智子『図説　世界の地誌【改訂版】』古今書院 2016 年 （２）『詳解現代地図』など、中学校・高等学校で使用する地図帳 （３）水野一晴　『人間の営みがわかる地理学入門』 ベレ出版　2016年 （４）教科書ｐ134～137 に示されている参考文献を参照のこと
学生に対する評価 レポート評価（５０％）、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。